

2017年11月1日  
東京工業大学国際交流学生会SAGE

## 8th ASCENT 開催報告書

2017年8月、東工大を拠点に国際交流活動を進めている「東京工業大学 国際交流学生会SAGE（以下、SAGE）」が、第8回アジア理工系学生連携促進プログラム「8th ASCENT」を開催しました。本プログラムには、日本を含むアジア圏7か国から学生25人が参加しました。



ASCENT参加者の集合写真

### ASCENTの概要

アジア理工系学生連携促進プログラムASCENTは、Asian Students Collaboration Encouragement Program in Technologyの略称であり、SAGEが企画・運営を行う10日間の国際交流プログラムです。アジア圏の理工系大学に所属する学生間のネットワーク構築を目的としています。

本プログラムでは、科学技術に関連するテーマを開催年ごとに設定します。参加者はテーマに関連した研究や事業を行っている民間企業や研究所、官公庁、学内研究室へ訪問することで、テーマに関して理解を深め、ビジネスにおける応用例を学びます。さらに、これらの訪問を基にして、近年アジア各国が抱える問題に対する解決策を少人数のグループで話し合い、最終日に報告会を行います。各グループは様々な国籍のメンバーで構成されるので、文化や習慣の違いに困惑することがあります。しかし、自分たちが見つけた問題に対して議論を交わし、解決策を共に創りあげる経験をすることによって、学生間の強固なネットワークを構築することができます。また、学術的な活動を軸に据えながらも、文化交流会や日本文化研修なども行います。それらの企画を通して異文化交流や学生間の交流を促進させ、本プログラムが学術的な側面だけではなく総合的な体験の場となることを目指しています。



最優秀賞獲得チーム

## 8th ASCENTの開催

8th ASCENTは2017年8月19日から8月28日の10日間にわたって開催しました。今回のテーマは「The Dawn of IoT～IoT時代の幕開け～」です。近年、市場規模が拡大し続けているIoT（Internet of Things）技術に関して理解を深め、アジア諸国が抱える複雑な問題に対してどのようにIoT技術を用いることで解決できるのか議論しました。本プログラムには、中国、台湾、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、日本の7か国から合計25人が参加しました。参加者は基調講演や企業見学、ディスカッションなどを経て、最終報告会ではIoT技術を用いた新しい製品やサービスを提案しました。

## スケジュール

日程	内容
8月19日	海外学生到着、歓迎会
8月20日	開会式、事前学習報告会
8月21日	特別講義、企業見学（横河電機株式会社）
8月22日	文化交流会、研究室見学（すずかけ台キャンパス 益・伊藤研究室）
8月23日	基調講演（経済産業省）、中間報告会
8月24日	研究説明（大岡山キャンパス 井村研究室）、企業見学（株式会社小松製作所）
8月25日	企業見学（NTT コミュニケーション科学基礎研究所 スポーツ脳科学プロジェクト）
8月26日	ディスカッション
8月27日	日本文化研修
8月28日	最終報告会、閉会式、送別会

## 参加国・参加大学

- 日本：東京工業大学、一橋大学
- 中国：清華大学

- 台湾：国立台湾科技大学
- インドネシア：バンドン工科大学
- タイ：チュラーロンコーン大学、タンマサート大学
- フィリピン：デラサール大学
- ベトナム：ハノイ工科大学

## プログラム内容

- 基調講演・企業見学・研究室見学

基調講演では、経済産業省に訪問し、IoTの概要や現在行っている政策、国際的な協力体制などについて学びました。企業見学では、株式会社横河電機、株式会社小松製作所、NTT コミュニケーション科学基礎研究所 スポーツ脳科学プロジェクトの3社を見学しました。IoTに関して各企業で行われている事業の説明だけでなく、プラントで用いられる計測機器の見学やセミオートマチック運転制御システムが搭載された建機の運転体験、運動計測に用いられるシミュレーター体験などをさせていただきました。研究室見学では、本学の工学院電気電子系 益・伊藤研究室へ訪問し、また工学院システム制御系 井村順一教授による講演を行いました。農業分野におけるIoTの活用方法や、スマートグリッドでの分散型電力制御について学ぶことができました。



ドローンによる計測デモ（小松製作所にて）

- 特別講義

本学の環境・社会理工学院融合理工学系のTom Hope准教授による、魅力的なプレゼンテーションに関する特別講義も行いました。参加者は聞き手を引きつける話し方やプレゼンテーションの構成、注意すべきことなどに関する講義を受けました。その後、プレゼンテーションの練習として「IoT分野における各国の違い」というテーマに関してミニ発表を行いました。この特別講義で学んだことが中間報告や最終報告に活かされたようです。



プレゼンテーション特別講義

- ディスカッション・中間報告会・最終報告会

全25人の参加者は4つのグループに分かれ、アジア諸国が抱える問題を一つ取り上げ、それに対する解決策を話し合います。企業見学や研究室見学などで学んだことを参考にしつつ、今までにない新しい製品やサービスを考えます。各グループは国籍や専門分野が異なる学生で構成されるので、様々な意見が飛び交い、非常に白熱したディスカッションとなりました。

5日目に行われた中間報告会では、日本企業のIoT活用事例に関する記事に対する考察とディスカッションの進捗状況について報告してもらいました。他の参加者やSAGEメンバーからフィードバックをもらい、後半のディスカッションに活かしてもらうことが狙いです。

最終日の最終報告会では、10日間にわたる活動のまとめとして、各グループで考えた新しいIoT活用方法の提案をしました。各グループで取り上げた問題は様々であり、その問題に対する解決策はオリジナリティ溢れるものとなっていました。ただ単に新しい製品やサービスを提案するだけでなく、提携企業や運用リスクなどの実現可能性についても言及されており、どのグループも中身が非常に濃い発表となりました。



最終報告会

● 事前学習報告会・文化交流会・日本文化研修

本プログラムは、学術的な活動だけでなく、アジア各国について学ぶ企画も行います。事前学習報告会では、各国の参加者が自国に関する文化的・社会的情報と自国のIoT関連企業について紹介します。文化交流会では、各国の文化を紹介し、それらを参加者全員で体験する交流会です。各国で有名なお菓子を食べたり、伝統的なダンスや習字などに挑戦したりするなど、普段の生活では体験しない他国の文化に触れることができました。予定していた時間では物足りないくらい非常に盛り上がった交流会となりました。プログラムの終盤には、日本文化研修として国内の文化的に有名な観光地へ出かけます。今年は埼玉県の川越を訪れ、蔵造りの町並みや伝統的な川越まつりで用いられる山車の展示などを楽しみました。海外学生はもちろん、日本人学生にとっても日本文化を知る良い機会になったのではないかと思います。



文化交流会



日本文化研修（川越にて）

## SAGE代表総括

私はこれまで2年半の間SAGEに在籍し、今年  
は代表として団体全体をまとめつつ、7thの経験  
を活かし8thASCENTの内容決定にも深く関わり  
ました。10日間の本番に対し一年以上に渡ってメ  
ンバーと共に調査や話し合いを重ね、より充実  
したプログラムの開催に向け尽力しました。プロ  
グラム内容の洗練に加え、参加者選考や資金獲得  
など多岐にわたる準備を進めることは、想像以上  
に大変なことでした。最終的に、国際交流に対  
して熱意があり非常に信頼できるメンバーと、一  
つのプログラムを完成させることが出来た時は、  
安堵感と達成感を感じました。

今年は初めて台湾からの参加学生を迎えたり官  
公庁に訪問したりと、年々プログラム内容は多  
様性を高めています。海外参加者のほとんどに  
とって、ASCENTが初めて日本に来る機会では  
したが、過去参加者の中には、現在東工大に在  
籍している留学生や日本での就労者もいます。  
ASCENTが参加者にとって、ただの留学経験で  
なく人生における転機となる大変貴重な10日  
間であると確信し、開催意義を感じています。

国際交流の魅力は、様々な背景を持った人々が  
交流することで、新たな価値観や発見が生ま  
れることだと思います。SAGEは今後も東工大  
生が気軽に国際交流を出来る機会を設け、メ  
ンバー・参加者共に成長していけるような団  
体でありたいです。

## 9th ASCENTについて

次回のASCENTは2019年春に開催予定です。ア  
ジア諸国が抱える問題や社会現象などの時事に



表彰式にて

基づいてテーマを選定し、講演や見学先企業を順次決定します。9th ASCENTの応募に関して、海外大学生向けは来年8月頃、東工大向けは9月頃に開始する予定です。

ASCENTは東工大生はもちろん、アジアの大学に属する学士・修士・博士課程の学生であれば、誰でも応募することが出来ます。プログラムの詳細や応募方法などはSAGEのWebサイトや各種SNSを通じて発信します。

東工大生の国際的な活動を促進するASCENTを今後も開催していきます。





